垂水小学校５年生森林教室「川の源流探検」

野下治巳・芦原誠一・内原浩之
（農学部附属高隈演習林）

はじめに

森林の公益的機能には酸素，水の供給などの人間生活に直接関わる機能のほか，生活の質を高めるのに役立つ多くの機能がある。特に日本は，国土の３分の２を森林が占めることから，野外活動等のプログラムを工夫すれば，より教育効果が高まることが期待される。

高隈演習林には3000ヘクタールにおよぶ広大な森林があり，これまで農学部の森林・林業に関する教育研究の場として利用されてきたが，近年の森林をとりまく状況から，一般市民やこどもたちを対象にした森林教育の場としての利用も，これからの大学演習林のあるべき姿の一つとして重要なものと考えらる。

本報告は，平成15年度垂水小学校５年生森林教室の中の「川の源流探検」についてのプログラムを紹介する。

川の源流探検企画内容

垂水小学校からの依頼（総合学習の時間全42時間）の一部として演習林での自然体験活動をとうして，次の活動のための課題を探す目的で，５年生３クラス（各33人）を対象に，10月7.8.15の３日間で行っい，１クラスを６班（５～６人）に班分けし，職員が指導を行った。

この川の探検隊の活動を通して子供達に体験してほしいことは？

①水の循環を体験してほしい。
②川の自然を体験してほしい。
③水の大切さを感じてほしい。
④私たちの暮らしと川の関係について考えてほしい。
⑤友達と協力して達成する喜びを感じてほしい。
⑥自然の中でたくさんの「なんでだろう？」を発見してほしい。

この６課題を実現させることを目的に今回，活動を行った。

プログラム活動場所

長谷川沿いの河原・前半（9:20～11:30）

①川ってなんだろう？この水はどこから来たのかな？雨→川→海→水蒸気という話から，川がどのようにして出来たかの説明～流れているのは，水だけか？他に何が流れている物は無いか観察し発表。

②川の中の生き物を探す。石の裏に住む虫，魚など。水中眼鏡・虫眼鏡など使いトレイに集め川の虫シートを使い名前の確認と虫の種類によって川のきれいさとの関係。また，川の食物連鎖を空き缶を使ったピラミッド作りで体験し，鳥や魚が多い川は，豊かな森が必要なことを教える。

③川の宝探し。色々な物に注意を向けさせ，見つけさせ，広い場所で各自10分程度探した後，発表。

④名付け・俳句作り。周りを見渡し，好きな教材を子供一人一人が選びオリジナルの名前を付けたり，五・七・五の句を作成し，発表。

源流沢登り・後半（12:20～14:40）

①水の旅。沢登り出発地点で，自分の体が水にとけていくイメージ。水の旅を想像させた後，源流へと向かう。その際，子供達の体調チェック。班の中で協力して進む事を確認する。

②川の難関。どこを通るか？班のリーダーを中心に全員がケガをせずに突破できるか考えさせる。
③水のカーテン。軽石の壁一面から湧き出る湧水。軽石層の中に地下水としてたまった水が少しずつ流れだしていることを解説する。
④最終地点。穴の谷湧水。軽石の洞窟より大量の水がわきだす珍しい川の始まり。ここより上には水がない，ということを子供達に伝え，この水の量はどれぐらいか？この水はどこからきたのか？水温はだいたい何度？などと子供に問いかける。

事務所・ふりかえり（3:00～3:20）

①班単位で今日のまとめ。「ふりかえりシート」に書いて発表し，みんなで意見交換を行い，水の大切さ，水が循環してること，虫も魚も鳥も人も水に生かされていることを話し合う。

このようなプログラムのもとに森林教室「川の源流探検」を行い，三日間ともケガ無く終わることができた。

まとめ

このプログラムを実行する際にあたっては，テーマをはっきりと持ち，「企画のねらい」を念頭におき，より充実した指導が出来るよう心がけた。また，「立案→実施→ふりかえり→再実施→ふりかえり」という流れを繰り返すことによって，スタッフ全員の実施技術の向上に役立てた。

今回，このような企画を通じて思ったことは，子供にどう呼びかけたら，目，口，耳を開いてくれるかの難しさ。また，クラスや班によって状況が違うことから，臨機応変に指導方法，プログラム順を変化させて行かなければならないことの難しさも解った。

今後も以上の点に注意して，演習林独自のプログラムを企画し，多様な要請に応えていきたい。なお本稿ではふれなかったが，この企画を実行するにあたって大学生スタッフ三名の協力を得て実施した企画であった。

川の食物連鎖（鳥→魚→虫→葉っぱ）

川の宝探し（名付け・俳句づくり）

沢登り（友達と協力して達成する喜び）

水のカーテン（軽石の壁から湧き出る湧水）